

インフォメーション・コーナー

会 告

○ 2021 年度農業農村工学会大会講演会の開催（第 1 報）	68
○ お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	68
○ 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	69
○ 「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております!	69
○ 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020 年 7 月から 2021 年 6 月までの編集体制と編集事務局	70
○ Joint 11th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 21st International Symposium on Advanced Intelligent Systems (SCIS&ISIS2020) の開催	71
○ 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2020 の開催	71
農業農村工学会論文集 内容紹介	72
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	74
学会記事	75

第 89 巻第 1 号予定

展望：白谷栄作

小特集：農業農村工学における ICT 利活用の現状と将来展望

報文：農業農村整備における情報化施工および 3 次元データ活用：友寄厚樹ほか

報文：PWA を活用したラオスの薬用非木材林産物の情報発信：木村健一郎ほか

報文：奈良県の中山間地域におけるカキ栽培スマート化の取組み：山本純之ほか

報文：営農と圃場整備をつなぐドローン圃場センシングの可能性：栗田英治ほか

報文：深層学習と物理モデルを用いたリアルタイム水位予測システム：安瀬地一作ほか

報文：画像解析を用いた水門開度および水位の遠隔監視：関島建志ほか

報文：ICT を活用した中山間地域における養蜂の取組み：柿野 亘ほか

報文：上下流の配水不均等の診断に基づく水管理システムの構築とその効果：藤山 宗ほか

技術リポート

北海道支部：泥炭地における農業用パイプラインの沈下と漏水リスク管理：坂本克史ほか

東北支部：道路改良工事における ICT 活用：児玉守智ほか

関東支部：農地整備における情報化施工の取組み：花塚康行ほか

京都支部：五十鈴川におけるパイプラインの河川横断工事：藺田敦之

中国四国支部：供用中のダムにおける取水塔基礎の水申施工事例：田中正弘

九州沖縄支部：希少野生生物に配慮した施工事例：上田琢朗

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2020年 12月(予定)	京都支部	第77回支部研究発表会	—	Web形態	88巻4,6,10号
2020年12月 15日	北海道支部	第69回研究発表会	ⓑ —	Web形態	88巻9号
2020年12月 18日	材料施工研究部会	第57回シンポジウム	ⓑ 近年の豪雨による農業施設の被害と復旧状況	Web形態	88巻11号
2021年1月 19日	農村道路研究部会	第30回研究集会	ⓑ 農道施設の点検について	Web形態	88巻10号
—	中国四国支部	第75回講演会	—	Web形態	88巻5,8,9,11号
—	水文・水環境研究部会	第33回シンポジウム	—	誌上発表	88巻10号

2021年度農業農村工学会大会講演会の開催（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2021年度（第70回）農業農村工学会大会講演会は、福島大学農学群食農学類において開催を予定しています。大会講演会への投稿、参加申込みはWebからになります。投稿要領、参加申込み方法など、詳細は続報でお知らせいたします。

1. **開催期日** 2021年8月31日（火）～9月3日（金）
講演会：2021年8月31日（火）～9月2日（木）

交流会：2021年8月31日（火）

現地研修会：2021年9月3日（金）

2. 会場

開会式、学会賞授賞式、講演会、交流会：

福島大学講義棟およびザ・セレクトン福島

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2020年度の学生会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮

に資する技術開発

- ③ ①, ②以外の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進

・上記①, ②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

- ④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

- ⑤ 若手研究者の育成の推進

- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

- ⑦ その他（学会に一任）

詳しくは学会ホームページ (http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onagai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 12 号掲載の問題は 1 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7~9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/journal/>）に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

なお、投稿票・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を更新いたしました。上記の学会ホームページからダウンロードし、各ファイルを使用して原稿の作成をお願いいたします。

学会誌第 89 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4 判 1,500 字以内)
第 89 巻第 1 号 農業農村工学における ICT 利活用の現状と将来展望 (仮)	終了
2 号 中山間地域における水路インフラの保全・活用と農業農村工学 (仮)	終了
3 号 地域資源の活用による中山間地域の地域活性化 (仮)	終了
4 号 With & Post・コロナ時代の農業・農村のあり方 (仮)	終了
5 号 農業用ダムにおける洪水調節機能の増進方策 (仮)	終了
6 号 研究・教育を担う人材育成と学術評価のあり方 (仮)	12 月 10 日
7 号 大会特集号 (東北支部)	公募なし
8 号 記録的な豪雨に対応する農業農村地域の役割 (仮)	2 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (公社)農業農村工学会
 農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
 TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494
 E-mail：henshu@jsidre.or.jp

第 89 巻第 6 号テーマ「研究・教育を担う人材育成と学術評価のあり方」(仮)

ここ数年、学会活動の大きなテーマは「人材確保と人材育成」です。これまでに、若手人材の確保のために学会大会講演会時における各種企画やスチューデントセッションの実施、学生会

員の 2020 年度会費等の無料化、農学部系学生向けの LINE 公式アカウントの開設、土地改良建設協会との「農業農村工学系の技術者育成、確保に向けた連携協定書」の締結、若手研究者

育成のための学術基金の拡充など多くの取組みがなされ今後効果が期待されています。同時に、人材育成の主要な場である大学組織内において農業農村工学分野が適切に評価される取組みも急務です。

近年、学部や修士課程の学生確保は一定の水準を維持しています。しかし、当分野における博士課程の学生数は減少傾向です。そして、最近重要視されている社会人の大学院生数も当分野では伸び悩んでいます。この原因は、魅力ある課題の提示、多様な就職先の確保と提示、財政的な支援などが十分ではないと言われてしています。また、大学組織内における当分野の存在価値の低下は、今後の研究や高等教育を担う人材育成の面で大き

な課題です。学術振興の視点に立てば、実学が重視される当分野においても基礎的、先端的な研究は大学内の実績・業績向上のために不可欠です。また大学では、インパクトファクターのある国際誌への掲載実績に重点がおかれ、水土の知や農業農村工学会論文集などの、和文中心で、オンライン学術データベース（Web of Science や Scopus など）への登録がされていない論文の業績評価説明に苦慮する実態も報告されています。

このため、農業農村工学の果たすべき社会的使命と人材育成の必要性などを踏まえ、当分野の実績・業績が適切に評価されるための戦略や人材育成のあり方等について、会員から多くの報文を期待します。

第89号第8号テーマ「記録的な豪雨に対応する農業農村地域の役割」(仮)

近年の記録的豪雨は、既存の治水施設や排水施設では災害を防ぎきれない事象を発生させ人命や農業農村に甚大な被害を与えています。さらに、中山間地域などではこれらの災害を契機として地域の存在が危ぶまれる状況も生じています。第89巻第5号では、豪雨や洪水に対する点的な対応策として「農業用ダムにおける洪水調節機能の増進方策」(仮)を企画しました。一方、国土の多くを占める農地や地域に面的に点在するため池などの洪水緩和・調節機能の発揮などにも大きな期待がかけられています。その中で、水田の洪水低減機能の増進のための「田んぼダム」の取組みは、社会実装の段階までに発展しています。

また、2020年7月の社会資本整備審議会の答申では、気候変動を踏まえ社会全体で洪水に備える水防災意識社会の構築やあらゆる関係者が協働して流域全体で行う「流域治水」への転換の推進などが示されています。

そこで、本小特集では流域に広く、また多数分布する農地やため池などの洪水防止機能の可能性やその限界、さらなる豪雨災害に対する機能向上の方策および国土強靱化への貢献策、これに関連する農業者や農業側の意識などについて、これまで解明された知見、開発された技術とその適用、今後の研究方向などに関する報文を広く募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2021年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2018年のインパクトファクター（IF）は1.264となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など）

- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界11カ国からEditor（20名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2020年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・Editor-in-Chief

Dr. Takao MASUMOTO

Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University, Akita, Japan

・Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Chen-Wuing Liu

National Taiwan University, Taiwan, ROC

- **Editors** 11 国から 20 名
- **Editorial Advisors** 29 名
- **Chief Managing Editor**
Dr. Inhong SONG
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea
- **Managing Editors**
Dr. Chihhao FAN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
- Dr. Masayuki FUJIHARA**
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
- Dr. Eunmi HONG**
School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea
- Dr. Toshiaki IIDA**
Graduate School of Agricultural and Life Science, The University of Tokyo, Japan
- Dr. Kuo-Wei LIAO**
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
- Dr. Soji SHINDO**
Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science(JIRCAS), Japan

編集事務局 (2022 年 6 月まで韓国担当)

- **Dr. Inhong SONG**
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University
1 Gwanak-ro, Gwanak-Gu, Seoul, 151-742, KOREA
TEL : +82-2-880-4581
FAX : Fax: +82-2-873-2087
E-mail : inhongs@snu.ac.kr

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,000 円+税
学生会員 (院生含む) 4,500 円+税

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

**Joint 11th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and
21st International Symposium on Advanced Intelligent Systems (SCIS&ISIS2020) の開催**

- | | |
|---|--|
| <p>1. 主 催 日本知能情報ファジィ学会
協 賛 農業農村工学会ほか</p> <p>2. 日 程 2020 年 12 月 5 日 (土) ~8 日 (火)</p> <p>3. 会 場 オンライン開催</p> <p>4. 問合せ先
〒 820-0067 福岡県飯塚市川津 680-41
(一財)ファジィシステム研究所内</p> | <p>日本知能情報ファジィ学会事務局 担当: 國安
TEL : 0948-24-3355 FAX : 0948-24-3356
E-mail : soft@flsi.cird.or.jp</p> <p>5. その他
詳しくは、SCIS&ISIS2020 のホームページ (http://scis.j-soft.org/2020/) をご覧ください。</p> |
|---|--|

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2020 の開催

- | | |
|--|--|
| <p>1. 主 催 全国土地改良事業団体連合会
都道府県土地改良事業団体連合会
後 援 農業農村工学会ほか</p> <p>2. テーマ 「新発見!ほくのわたしのふるさと自慢!」</p> <p>3. 受賞作品展示
期日: 2020 年 12 月 4 日 (金) ~11 日 (金) ※7 日 (月) 休館日</p> | <p>会場: 東京都美術館 1 階第二展示室</p> <p>4. その他
詳細は、全国土地改良事業団体連合会ホームページ「「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2020」(http://www.inakajin.or.jp/eventinfo/tabid/267/Default.aspx) をご覧ください。</p> |
|--|--|